

～原子力の
理解を求めて～

えねるぎーかわらばん

Vol. 91

福井県原子力平和利用協議会 略称(原平協)
事務局:敦賀市野神40-203 TEL:0770-24-5450
原平協HP:https://genheikyo.jimdo.com 二次元コード▶



『ふくしまは今 2021』

東京電力(株)
福島第一原子力発電所の
現状をお伝えます

昨年12月上旬、私たち原平協広報委員会は4回目の福島第一原子力発電所の視察研修を行いました。今回の視察研修では、福島浜通りにお住まいになる方々と対話する機会を持つことが出来ました。

本号では対話の様々を交え、福島第一原子力発電所の廃止措置の現状と処理水の問題を併せて、皆様にお伝えます。

福島第一原子力発電所の廃止措置の現状

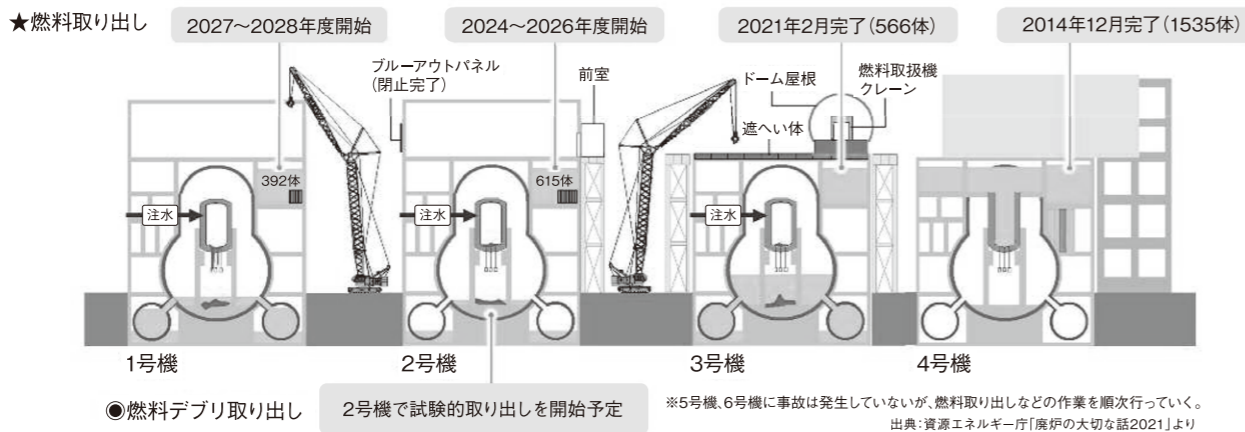
- 福島第一原子力発電所は、1号機から6号機まで6基の原子炉があり、その内事故を起こした1号機から4号機について廃炉作業を進めています。
- 5、6号機は電源を確保できたことから、過酷事故には至りませんでした。2014年1月付で廃炉が決定し、今後は、試験設備等で活用することを検討しています。

廃炉作業は30～40年かけて安全着実にっていきます



1号機から4号機の状況

各号機ごとに状況が異なるため、対策の実施方法や進捗状況は様々です。

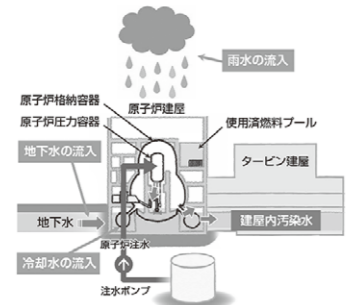


汚染水を浄化して処理水へ…そして

汚染水発生の仕組み

福島第一原子力発電所の事故により発生している高濃度の放射性物質を含んだ水を「汚染水」といいます。

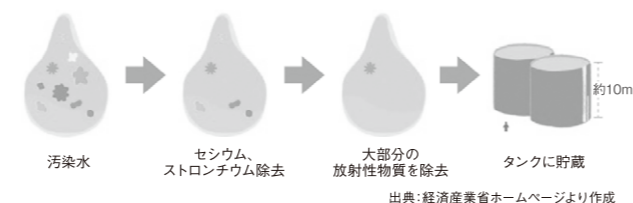
原子炉内には事故により溶けて固まった燃料(燃料デブリ)が残っています。この燃料デブリを冷却するための水が燃料デブリに触れる、建屋内に流入した地下水や雨水が汚染水と混ざる、といったことにより、新たな汚染水が発生しています。汚染水対策は「汚染源の水を近づけない」「汚染水を漏らさない」「汚染源を取り除く」という3つの基本方針をもとに実施し、1日当たりの汚染水発生量は大幅に減少しています。



出典:経済産業省ホームページより

汚染水の浄化処理

汚染水に含まれる放射性物質によるリスクを低減させるため、まずは、セシウム吸着装置を使い、汚染水に含まれる放射性物質の大部分を占めるセシウムとストロンチウムを重点的に取り除きます。その後、多核種除去設備(ALPS :アルプス)で処理することによって、トリチウム以外の大部分の放射性核種を取り除くことができます。これを「ALPS処理水」として、敷地内のタンクに貯蔵しています。



◎今回の視察研修は、経済産業省資源エネルギー庁からの委託を受けた、(一財)日本立地センターの支援により行いました。次号は、3月12日(土)に、「原平協50周年」について掲載予定です。

ALPS(アルプス)処理水の処分はなぜ必要?

廃炉作業を進めていくためには、燃料デブリの取り出しや廃棄物の一時保管のために敷地の確保が必要で、これ以上タンクを増やし続けることはできません。現状、1000基を超える貯蔵タンクが設置されており、ALPS処理水を処分する必要があります。

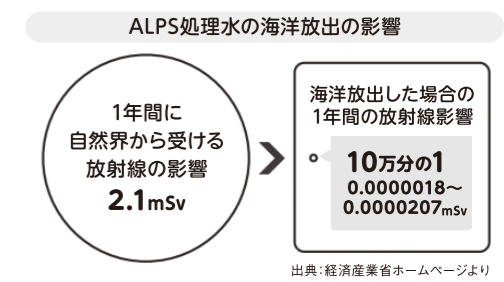
ALPS(アルプス)処理水の処分方法

2021年4月13日、政府はALPS処理水を2年程度の準備期間を経て、安全性を確保し政府を挙げて風評対策を徹底することを前提に、海洋放出の方針を決定しました。ALPS処理水にはトリチウムという放射性物質が残っています。トリチウムは水素の仲間であり、水道水

や食べ物、雨水等、自然界に存在し、規制基準を満たして処分すれば環境や人体への影響は非常に低いとされています。

放出する際には、世界共通の安全性に関する考え方に基つき、トリチウム濃度が規制基準を大幅に下回るよう、十分に希釈した上で実施します。

廃炉の推進には不可欠であるものの、被災地や農林水産業に携わる方々からは、風評被害について懸念する声があがっています。



福島浜通りの方にお伺いしました

Q 風評被害が復興の一つの妨げになっていると思いますが、新聞、テレビなどの被害情報の報道の在り方について、地元の方はどのように感じていますか。

A 風評被害の根源である放射線の線量の高さが報じられましたが、これまでの数値がわかりませんでしたし、今もってわかりません。過去のデータに基づいた報道をして欲しかった。環境モニタリングの情報も出てなかったように思います。またその場だけ報道して、その後どうなったかも報道していないように感じています。賠償金をもらっているだろうと言われることも風評被害ではないでしょうか。マスコミの報道の内容によってとらえ方や見方が変わってくるように思います。

Q ALPS処理水を海洋放出する方針が決定されていますが、地元の方の反応はどのようなものですか?

A 基準値での放出って言われていますがそれって何?という感じです。何をもちて基準値なのかなど、わかりやすく説明して欲しいと思います。処理水を放出しないとたまることは当たり前で、何をいまさらって感じです。東電は『はいろみち』(市民向けの冊子)で状況は説明していますが、市民にはあまり浸透していない気がします。

Q 東京電力の福島への関わり方(お手伝い等)は、地域の望む方たちなのでしょうか?

A ゼネコン・商工会・東電・住民によるコミュニティが作られ、夏祭りなどのイベントの実行委員会やまちづくり公社に対してお手伝いや支援を頂いている。また帰還に向け住宅地や進入路の除草作業や引越しに際しての搬出、運搬作業等の地域復興に取り組んでいます。ただ処理水や廃棄物の問題を東電に任せて、国は何もしないので、10年経っても進んでない気がします。

事故から10年

が経過し、この10年間、東京電力も地域の復興に努めてきたと思いますが、その取り組みをどのように評価していますか?



A 地域共生としてですが、町民(大熊町)のうち1,000人、協力会社を含むと1,700人くらいが東電に就労していました。住民の多くの方に関わりがあったので、あまり厳しい意見は少なかったような気がします。事故の処理については安全安心を前提として、速い処理を望んでいます。また清掃片付けや除草、鳥獣対策の電気柵の設置や寺社の管理等、地域貢献については助かっています。

お話しをお伺いして…

今回お会いした方の中で、福島第一原子力発電所の事故により、避難を余儀なくされ、いまだに自宅に帰れないという方がいらっしゃいました。そのことで正直原子力を恨まないことはないのですが、自分の知人や近所の人で原子力発電所の仕事に従事されている方がいて、逆に気の毒な感情も生まれたということでした。福島で原子力発電はもうできないけれど、日本のエネルギー事情を考えると、安全安心が守られるなら、原子力発電も必要ではないかという意見もいただきました。今も帰宅できない避難者数が34,000人あまりいらっしゃる現実の中、福島事故の教訓を決して忘れることなく、私たちは2050年カーボンニュートラルの実現のために、原子力発電を考えていくことが重要であると、再認識した視察研修となりました。

※当協議会のホームページにアンケートのお願いがあります。是非、皆様のお声をお聞かせください。